

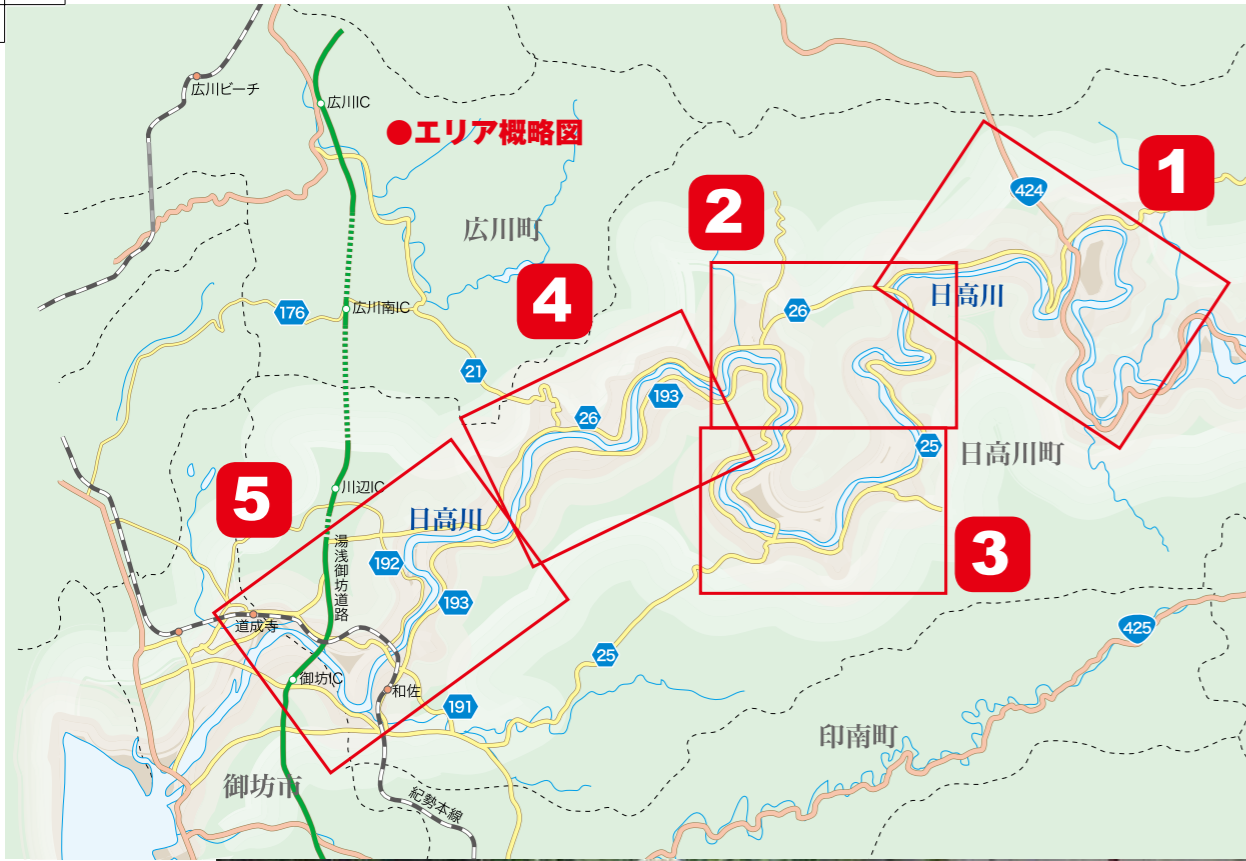
豊富な天然遡上で終盤まで大釣りできるパラダイス

ひだかがわ

日高川 ダム下

和歌山県内にかぎれば総延長が県下一の日高川の中ほど、椿山ダムから下流エリアが日高川ダム下の釣り場。御坊市を通る高速道路よりも下から友釣りが可能で豊富な天然遡上アユが目印を躍らせてくれる

解説◎廣岡保貴



最下流部の野口橋から上流方向。橋の真下に多くのアユが見えていた平成25年10月19日

川中迂回線、長子橋からすぐ下流の瀬。岩盤や大きい石が多い好ポイント



廣岡保貴さん（左）と弟の廣岡昭典さん。わずか1時間の釣りでお2人とも20尾前後の釣果をたたき出した。



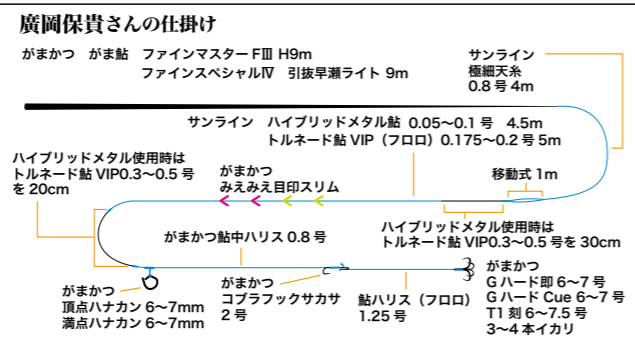
雨上がりの姉子の瀬でアクティブにオトリを泳がせ順調に掛ける廣岡保貴さん

遡上が早い年は 解禁日から18cm

日高川の椿山ダムから下流域はダム上にくらべて石は小さめ。特に最下流部は女性的なやさしい流れとなりトロやチャラでの泳がせがメインという印象があるが、水量がありダイナミックな瀬釣りも可能だ。熱心な漁業組合による人工産の放流に加え、何より天然遡上の海産アユが多いので5月1日の早期解禁から11月まで安定してねえ、特に盛期から後期にかけて大釣りできる。初冬の12月になって暖をとっていたコタツを出てから川に入ってアユを釣ったなどという話もあるほど、遅い時期まで釣れる川だ。また遡上開始が早い年などは解禁当初から18cmクラスが掛かることがある。ポイントはダム直下の笠松大橋から御坊市の野口橋までの長い区間に非常に多くあり、釣り人が多い休日でも人気ポイントさえ避ければのびのびとサオが振れるのが魅力。8月になると水温が30度近くになることがありオトリ缶を深みに沈めておかないとアユが死んでしまうので注意。夏場は1尾目の野アユを素早く掛け、うまくオトリ継ぎをしたいものだ。海産メインなので人工産にくらべて追いがよく、いったん掛かりだせば入れ掛かりになる。

平水時、増水時、濁水時とすべて金属ラインで通すことも可能だが、濁水時はナイロンやフロロカーボンラインで泳がせたほうが確実に釣果はのびる。掛けバリも多めに持参し、こまめな交換がおすすめ。日高川は石に穴が開いており根掛かりが多いのも事実なので、あまりに根掛かりが多発する場合はハリ先が内向きのタイプに交換するとよいだろう。

金属ラインなら0.03〜0.15、ナイロン、フロロなら0.15〜0.25号をシーズンや状況に合わせて使い分けよう。サオもあまり硬い調子のもので、がまかつであれば早瀬クラスまでがオトリも弱らず使いやすい。個人的にはダム上への釣行が多いのだが、たまにダム下でサオをだすと、海産が多いせいか非常に釣りやすく感じる。



姉子の瀬。平成25年8月25日の様子。その後の大雨、増水で川相は大きく変化している